

林野庁 北海道森林管理局  
釧路湿原森林ふれあい推進センター  
令和4年度 年 報



## はじめに

北海道の東部に位置する釧路地方は、釧路湿原と阿寒摩周の二つの国立公園やラムサール条約登録湿地等、雄大な自然環境に恵まれた地域です。

釧路湿原森林ふれあい推進センターは、根釧西部森林管理署が管理経営する国有林の特徴を踏まえて、森林環境教育等に携わる教育関係者、ボランティア団体・地域住民、行政機関等の活動支援や技術指導を行っています。

今年度の主な活動内容がまとまりましたので、ご覧下さい。

目 次	頁
森林環境教育の取組み	1
【学校林活動】等【森林環境教育】	
地域との連携・普及啓発等の取組み	6
【地域との連携】【普及啓発の取組み】【広報活動】	
自然再生・生物多様性保全の取組み	12
【雷別ドングリ倶楽部】【野生生物調査】【釧路湿原自然再生協議会】	
活動区域及び所在地	

## 森林環境教育の取組み

### 【学校林活動】

「標茶町立中茶安別小中学校」は、標茶町の市街地から南東約 11km の中茶安別地区に所在し、児童・生徒数は約 20 名の小規模校で、小学校と中学校が併設されています。

学校林（愛称「るんるんフォレスト」）は、同校の西方約 2 km に位置し、森林内には案内板・林道・遊歩道・樹名板・巣箱・ツリーハウス等が整備されており、同校が策定した「森林環境教育年間指導計画」により、様々な自然体験学習を実施しています。また、同校は開校間もない昭和 6 年から現在まで、植樹活動に取り組むとともに、緑の少年団活動を通じて各種催しに参加する等、積極的に外部との交流を行っており、これまでの緑化推進の功労と森林環境教育の実践が認められ、平成 31 年に「緑化推進運動功労者内閣総理大臣表彰」を受賞しました。

当センターは、平成 18 年度から学校林活動に携わっており、令和 4 年度は春と夏及び秋の 3 回、体験学習等の活動を企画・支援しました。

### 春の学校林活動 5月23日（月曜日）

「るんるんフォレスト」で、新型コロナウイルス感染症対策のため、全員マスクを着用し、今年度も昨年度同様、何とか引き続き学校林での植樹を実施することが出来ました。

（全校児童・生徒 25 名、保護者・先生・関係機関など全体で 50 名程度参加）

まず始めに標茶町森林組合が「植樹」、当センターが植栽木を野生生物（エゾシカ・エゾユキウサギ等）の食害から保護するため「保護管（ツリーシェルター）の被覆」について説明した後、3 班に分かれて植樹、保護管の被覆を行いました。

児童・生徒は各々にスコップと苗木を持ち「エゾヤマザクラ」「カラマツ」の 2 種・合計 100 本を元気いっぱいを楽しそうに植栽している姿を見ることができました。また、保護管の被覆については上級生が下級生に被覆方法等を上手に教えて、綺麗に保護管の被覆まで終わらせ



▽植樹の様子



▽保護管を被覆する様子

ることが出来ました。当日は、マスクをしていることもあり、少し息苦しい中での活動になりましたが、生き活きとした生徒達の活躍により無事に活動を終わることが出来ました。今回の活動で植樹した苗木が立派に成長し、中茶安別小中学校の伝統がこれからも続いていくことを願っています。

## 夏の学校林活動 9月2日(金曜日)

今回の活動は、毎年実施している中茶安別小中学校林の「るんるんフォレスト」で、ヒグマが出没していることに伴い、学校内での実施となりました。

まず始めに、全校児童生徒に「森とくらし」という林野庁監修で親しみやすいマンガのキャラクターが登場して、日本にある森林のことや森林の持つ多くの役割を理解してもらう楽しいドリル形式の教材で学びました。Q&A方式で対話型なので話しの内容では、盛り上がる場所もあり、楽しみながら森林の役割を理解してくれたようでした。

その後は、小学1年生から小学4年生までを対象に「木育絵本ロボ木ー」(木と森と環境のかかわり)の読み聞かせと小学5年生から中学3年生までを対象に「森林の循環利用について(SDGsの話)」を2箇所に分かれて実施しました。

それぞれパワーポイントで実施して説明を行いました。特に「木育絵本ロボ木ー」では、主人公のロボ木ーが木が二酸化炭素を吸って、光合成を体内で行い酸素を供給するなどの内容を読み聞かせで話しをするので児童も楽しみながら学習してもらえたのではないかと思います。

今回の学校林活動は学校内での実施となりましたが、次回の秋の学校林活動は学校林で実施できることを願い、活動を終わりました。



▽森とくらしドリルの話し



▽木育絵本ロボ木ーの解説

## 秋の学校林活動 10月31日(月曜日)

今回の活動も中茶安別小中学校の校舎内での実施となりました。本来であれば、学校林で活動が行われるのですが、学校林内に設置された自動撮影カメラにヒグマが写ったり、町内に姿を見せたりしたため屋内での活動となりました。(参加者は、児童・生徒合わせて約25名、先生10名)

1 時限目は、体育館で「タネ（種）の模型を作ってタネをとばしてみよう！」と「木の種のおはなし」を実施しました。始めに、児童生徒全員に「木の種のおはなし」の資料に基づき、樹木や草本の種が次の世代をつなぐ架け橋になっていること、また、動くことが出来ない植物がいろいろな形で生息域を広げるための知恵と工夫を凝らし生きていることなどの説明を行いました。子どもたちは、センターが用意した樹木の種の標本に実際に触れながら、興味深そうに観察をしていました。



▽種の標本の観察の様子

次に、今回の目玉となる「タネ（種）の模型を作ってタネをとばしてみよう！」の実践です。模型は、紙と小さめの発泡スチロール製の重りで出来ており、タネの種類は、特徴ある熱帯アジア産ウリ科のアルソミトラ・マクロカルパ（グライダー・飛行機を作る参考にされたと言われています。）という種とラワンという日本でも建築材に使われるプロペラに似た翼を持って回転して飛んでいく種の模型を各自作成し、実際に飛ばしました。



▽種のおはなし

児童生徒は、「初めて作ってみて楽しかった、うまく飛ぶときとあんまり飛ばないときがあった」「回転して飛んだり、グライダーみたいに飛ぶので面白かった」など夢中になって飛ばす子もいるなど大盛況になりました。



▽アルソミトラ・マクロカルパ

2 時限目は、小学 1 年生～小学 4 年生の班と、小学 5 年生～中学 3 年生の班の 2 班に分かれ、グループ別の学習を行いました。

小 1～小 4 の班では「木育絵本ロボ木ー」という教材で、主人公ロボ木ーが、近年の地球温暖化の影響で動物たちのすみかが減少していることについてのお話しをし、その具体的な対応をマンガと読み聞かせで解説しました。



▽種とばしの様子

小 5～中 3 の班では、「森林の水源かん養機能」について説明しました。パワーポイン

トスライド画像（マンガバージョン）を見てもらいながら、森林の水を蓄える機能や土砂が崩れるのを防ぐ効用があること、また緑のダムとなって私達が生活する上で必要不可欠な生活・農業用水等に使われていることを説明することで、森林の役割を幅広く知ってもらえたのではないかと思います。

今回の活動を振り返り、児童生徒からは、「種の模型がすごい飛んだよ！」と元気な声を掛けられたり、「森林がいろんな役割をしているお話しが聞けて勉強になりました」等の声があり、森林のことに興味を持ちながら学んでもらえたようです。

また来年、春の学校林活動で子どもたちの元気な姿を見ることを楽しみにしています。

### ミニツリーづくり（授業参観で親子で木工クラフト） 12月8日（木曜日）

中茶安別小中学校の小学1年生～6年生の16名を対象に、木工クラフト「ミニツリーづくり」を実施しました。

この活動は、昨年11月に同校で開催した秋の学校林活動で木工クラフトの作品を紹介したところ、学校側から「木の材料を使ったミニツリーの制作」について相談があり、昨年の評判が良かったことから今年は1時限多く、小学校の2～4時間目の授業として行い、2回目の実施となりました。

当日は、授業参観日ということもあり、教室が密にならないよう、1年生と2年生及び3～6年生で3つに教室を分け、当センターが制作指導を行いました。

保護者の方々が見守る中、子どもたちは、マツボックリやドングリ、木の枝等の森林の恵みを自在に組み合わせて、「ミニツリー」や「森林のいきもの」等、素晴らしい作品を生み出し、また、親子で作品づくりに取り組む姿もあり、教室は、笑顔あふれる和気あいあいとした雰囲気にも包まれていました。

限られた時間での活動でしたが、皆、次々とアイデアが湧き出すのか、手を止めることなく作品づくりに取り組む子どもたちの姿を目の当たりにし、発想力の豊かさにただただ感服するばかりでした。

授業を参観していた保護者からは、「ネットで木工クラフトの動画などを見たことがあります、実際に作ったことがなかったので、子どもと一緒にできて良かったです」や「子どもたちが自由な発想で取り組んでいるのが良いですね」との声がありました。



▽制作の様子

この活動で作り出した作品が、各家庭での楽しいひとときを演出する一助となり、木や自然への興味を深めるきっかけになれば、大変うれしく思います。



▽児童の作品

### 【森林環境教育】～虹別中学校の総合的な学習の時間を支援～

## 森 林に係わる講話

(森林の役割、持続可能な循環型社会 SDGs の話し) 5月19日(木曜日)

標茶町立虹別中学校(標茶町虹別原野)において、総合的な学習の時間で「森林に係わる講話」の森林環境教育支援を行いました。

この取組は、今年3月に虹別中学校の担当の先生より、森林の持つ役割や持続可能な循環型社会(SDGs 関連含めて)、食物連鎖のことなどの講話のご依頼があり、協力することになり、全校生徒26名を対象に今回実施させていただいたものです。

まず始めに、食物連鎖について学びました。食物連鎖についての学習をする上で、楽しみながら学習してもらうため、捕食者と被食者の関係性について意識してもらうネイチャーゲームである「コウモリとガ」を実施しました。

生徒は、コウモリ役とガ役になりきって「コウモリ!」「ガ!」と大きな声で楽しみながら学習していました。

その後は、学校でシマフクロウの保護活動を行っているとのことで、生態系ピラミッドの話をして、頂点に立つ上位捕食者であるシマフクロウなどが生存していける森林を適切に維持管理していかないと人間も含めて生物全体の生存が危うくなる話しを行い、生徒たちは大きくうなずき関心の高さを感じました。

次に、森林のもつチカラ(豊かな森林の役割、水を蓄えるチカラなど)をイラスト入



▽開会のあいさつ



▽コウモリとガの解説

りの資料で解説しました。

最後に、近年よく耳にする SDGs（持続可能な開発目標）の関係を森林・林業の循環利用との関連（植える→手入れをする→伐る（収穫する）→使う）で具体例（副産物のキノコ、林業、レクリエーション利用で森林に親しむなど）を交えて講話をしました。いずれの項目も生徒たちは興味深く聞いてくれ反応が良く心強く、講師冥利につきる（やって良かった！）気持ちになりました。

今回の取組を通じて生徒の皆さんが森林の良き理解者になってもらえれば大変うれしく思います。今後も、要請があれば少しでもお役に立てるようセンターとして積極的に応えていければと考えております。



▽「コウモリとガ」実施の様子



▽生徒代表のお礼のこぼ

## 地域との連携・普及啓発等の取組み

### 【地域との連携】

**ふ**れあい木工クラフト 4月30日（土曜日）・5月1日（日曜日）

4月29日（金）～5月5日（木）の7日間、釧路市こども遊学館（釧路市幸町）で、ゴールデンウィークイベント「木木ひろば」が開催されました。

期間中、木をテーマにした「木木（もくもく）サイエンスショー」、木製遊具であそぶ「木木あそびランド」等の様々な催しが行われ、当センターからは、イベント中盤の4月30日（土）・5月1日（日）の2日間、自然の素材を使った「ふれあい木工クラフト」を開催しました。

当センターは、こども遊学館のスタッフとボランティアの皆様にお手伝いをいただき、マツボックリや木の枝・輪切りの木等の森林の恵みで木工クラフトづくりを行いました。

当日は、小さなお子さんや大人の方も熱中して木工クラフトを楽しんでおり、見本に忠実な作品や個性的な作品等を作っている姿が見られました。参加者の方々からは「楽しい！」「かわいい！」「また来てつくりたい！」「おもしろかった！」等の嬉しい



▽木工クラフトづくりの様子

声が飛び交っていました。

新型コロナウイルス感染症予防の対策もしっかりとられ、机の間隔も十分とった中で、2日間で約200名もの参加があり、親子や友達同士で木工クラフトづくりに熱中する様子が見られるなど、大盛況となりました。



▽参加者の作品

## 企業との協働による植樹 10月4日(火曜日)

雷別地区自然再生事業地の笹覆い地（標茶町雷別国有林）で、「企業との協働による広葉樹の森林づくり」を行いました。

この活動は、札幌市に支店を置く企業が、社会貢献活動の一環として、平成29年度から当センターと協働し、雷別地区自然再生事業地で行っている自然再生の取り組みで、今回で第5回目の開催となります。

今回の活動には11名が参加し、雷別地区の郷土樹種である広葉樹（ミズナラ、ヤチダモ、ハルニレ、カツラ）140本を植える予定でしたが、天候が良くないため70本の植樹とし、植栽木をエゾシカやエゾユキウサギの食害から保護するため、保護管（ツリーシェルター）の被覆を行いました。

当日は、雨の予報で心配がありましたが、作業中は少しの雨で持ちこたえ、予定の半分でしたが、本降り直前になんとか作業が実施出来たところです。

まず始めに、企業の代表者から開会のご挨拶をいただき、続いて、当センター所長から遠方より来ていただいたお礼と植樹の意義とSDGsについての話、また、企業による社会的貢献活動の感謝を交えて挨拶を行い、その後、参加者は、植樹班と保護管組立班に分かれ、それぞれの班で当センター職員による現地案内などを受けながら森林づくり活動に取り組みました。

参加者の約半数以上がこの活動を初めて経験したということ、また、天候が良くない状況ではありましたが、皆さん手際良く作業を進められ、植樹及び植栽木への



▽植樹の様子



▽保護管を被覆する様子



保護管被覆を雨が強くなる前に無事終了することが出来ました。

## 木育・森づくりフェア2022 11月19日(土曜日)

11月19(土)・20日(日)の2日間、イオンモール釧路昭和のサンコート広場で、2022「木育・森づくりフェア」が開催されました。

この催しは、木育の取組みを通して、協働の森づくりへの関心を高めるため、地域住民の方々に「木とふれあう機会を提供」し、「森林づくりの重要性」や「木の良さ」等への理解を深めていただくことを目的として、釧路町村会環境保全型森づくりプロジェクトチームとくしろ森と緑の会が呼びかけ人となり、国有林、釧路総合振興局、根室振興局及び関係団体が連携して行われたものです。



▽ミニツリーづくりの様子

会場には、釧路管内の木育・植樹活動を紹介する「パネル・木製品展示コーナー」、森のピタゴラスなどの木で遊べる「木製遊具コーナー」、そのかわいさから最近人気を集めるシマエナガの形そっくりのバードコールづくりや森の香りがする手ごねせっけんづくりができる「木育広場」、木の葉や輪切り、枝等で木工クラフトが作成できる「木工作体験コーナー」等、様々なブースが設けられました。



▽パネル展等会場の様子

当センターは19日(土)に、根釧西部森林管理署と連携して、マツボックリ・木の輪切りや枝等での「ミニツリーづくり」を企画したところ、開始早々から親子連れが続々と当ブースを訪れ、ミニツリーの見本を参考に材料を選び、木工クラフトづくりを楽しんでいました。



▽木工クラフトの力作(キリン)

また、午後からは更に多くの方が訪れ、用意した席がいっぱいになる時があるなど、会場は大いに賑わいました。

### 【普及啓発の取組み】

京都大学・北海道大学学生がパイロットフォレスト見学 9月6日(火曜日)  
京都大学、北海道大学の学生が、厚岸町と標茶町に広がるパイロットフォレスト国有林を見学しました。

これは京都大学と北海道大学が、北海道研究林標茶区（京都大学）及び厚岸臨海実験所（北海道大学）を拠点として、上流の森林と厚岸湖・厚岸湾、そして、これらをつなぐ別寒辺牛川を対象として、森林植生・水生生物・土壌・堆積物等に係る実習（総称「森里海連環学」）を行っており、その一環として訪れたものです。

まず始めに研修棟で、パイロットフォレスト造成時の様子を記録した DVD を学生の皆さんに視聴してもらいました。

質疑応答の後、若干機械庫を見学し、その後望楼へ移動しカラマツ造林地を眺望しました。当日は曇り空でそれほど遠くまでは見えませんが、学生の皆さんは望楼から眺望する広大な森林の風景に感動している様子でした。「とにかく雄大ですごい景観」「また、来たいです」等の声がありました。



▽研修棟内の受講学生



▽パイロットフォレスト DVD 視聴



▽望楼からパイロットフォレストを眺望



▽パイロットフォレスト案内看板説明

## インターン生受入れ1回目 7月27日（水曜日）・28日（木曜日）

2日間の日程で、令和4年度夏期インターン生1名（帯広方面の大学生）を当センターで受け入れました。この実習は、全体では5日間で実施し、当センターの日程以外は、根釧西部森林管理署が署の概要や取組を紹介し、林道や生産・保育箇所等の現地案内及び説明等を行い、署・センターでの共同実施という形となったものです。

インターンシップの取組は、学生の就業意欲



▽自動撮影カメラ回収体験

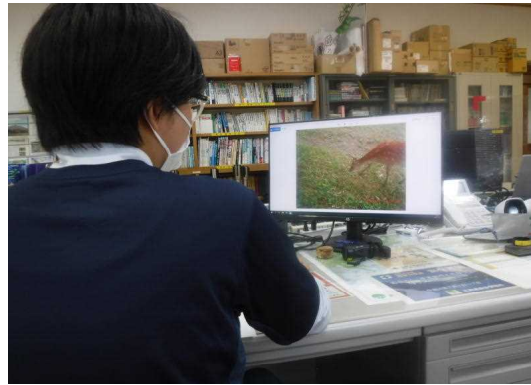
の育成や森林・林業、国有林野事業への理解を深めてもらうため実施しているものです。

両日とも、気持ちの良い青空が広がる絶好の日和となり、インターン生は、当センター職員の説明のもと、カリキュラムを熱心に受講していました。

今回の受け入れでは、当センターの活動内容や雷別国有林における自然再生の取組についての現地を含めての紹介、ネイチャーゲーム等を通じての自然体験学習、また、野生生物自動撮影カメラ回収及び画像確認などを受講していただきました。

インターン生の感想として、「勉強になり良い経験をさせてもらいました」「森林ふれあいや森林環境教育に興味がありいろいろな体験が出来ました」等の声があり、受講後は充実した表情を見せていました。

インターン生は、受講態度も素晴らしく、積極的に理解しようという姿勢が見られ、広葉樹の施業方法の質問などもあり、大変良かったと思います。



▽自動撮影カメラ画像確認



▽測桿での樹高計測体験

## インターン生受け入れ2回目 8月31日(水曜日)～9月2日(金曜日)

3日間の日程で、令和4年度夏期インターン生1名(京都の大学生)を当センターで受け入れました。今年度、1回目の受け入れは、署と共同で実施しましたが、今回はセンター単独での実施となりました。

初日は、あいにくの雨模様となったことから、センターでのガイダンス(センターの活動内容や標茶町雷別国有林における自然再生の取組について説明)後、予定を変更し、標茶町虹別国有林で防風保安林・間伐・主伐実行箇所等を見学、2日目は、天候も回復したことから初日予定の植栽木調査を午前中に、午後から主にカラマツの一大造林地パイロットフォレスト見学、3日目は、当センターで長年お付き合いさせていただいている標茶町立中茶安別小中学校での「夏の学校林活



▽測桿での立木調査体験



▽パイロットフォレスト DVD 視聴

動」に参加していただき、最後にネイチャーゲーム等を通じての自然体験学習、また、野生生物自動撮影カメラ設置及び画像確認などを受講していただきました。

インターン生は、当センター職員の説明のもと、各カリキュラムを熱心に受講していました。

今回の受け入れでは、3日間という短期間でしたが中身が濃く充実した内容で現地を含めての紹介、体験をしていただけたのではないかと感じております。

インターン生の感想として、「いろんな体験・経験をさせていただき大変勉強になりました」「自然観察や生物に関することに興味がある中、いろんな実務や経験が出来、今後活かしていけるのではないかと思います」等の声があり、受講後は充実された様子でした。

インターン生は受講態度も良好で、積極的に内容を理解・吸収したいという姿勢が随所で見られました。身近な植物の質問などもあり大変良かったのではないかと思います。

当センターにとっても、学生の皆さんの将来を考える機会を設けていける、携わらせていただけることを大変有りがたく感じます。今後も、機会があれば進んで実施していきたいと考えております。



▽パイロットフォレスト望楼から眺望



▽夏の学校林活動参加の様子

## **国** 有林若手職員対象の OJT（樹木勉強会） 10月25日（火曜日）

厚岸町愛冠の道立自然公園内の道有林にある「厚岸樹木園」で「根釧西部署若手職員 OJT（樹木の研修）」を総務・業務グループから各1名の計2名が参加し、釧路湿原森林ふれあい推進センター職員が講師となり支援し実施しました。

この OJT は、入庁 2～3 年の若手職員が、まだ十分に樹種の名前などを把握していないことから、署と当センターが連携・協力し実施したものです。

樹木園では、針葉樹と広葉樹が入り混じった天然林の中に、道内樹種 53 種のほか、道外樹種 16 種、外国樹種 13 種の約 800 本の樹木があり、当センター職員の解説を交え散策しました。

参加者からは、「いろんな樹種が見れて勉強になりました」「実際に樹木についての研修を受けるのは初めてで貴重な経験になりました」などの声があり、充実した表情をしていました。

最後に、当センター所長から、「参加の皆さんが各自研鑽を積み、本日行った研修を基礎として、樹木を少しでも多く覚えてもらえればうれしく思います」などの挨拶があり、その後、昼食箇所も兼ね、道の駅厚岸コンキリエに立ち寄り、帰路

につきました。



▽樹木を勉強する研修生

### 【広報活動】

**当**センターは、イベントのご案内や活動状況等について、ホームページと広報誌「飛鶴の森林から」で情報発信に努めており、森林環境教育や自然再生の取り組み等を掲載していますので、是非、ご覧下さい。

ホームページ ([https://www.rinya.maff.go.jp/hokkaido/kusiro\\_fc/index.html](https://www.rinya.maff.go.jp/hokkaido/kusiro_fc/index.html))

飛鶴の森林から ([https://www.rinya.maff.go.jp/hokkaido/kusiro\\_fc/letter/index.html](https://www.rinya.maff.go.jp/hokkaido/kusiro_fc/letter/index.html))

※下記二次元コードからもアクセスできます。



◀◀◀ 「ホームページ」二次元コード

「飛鶴の森林から」二次元コード ▶▶▶



## 自然再生・生物多様性保全の取り組み



### 【雷別ドングリ倶楽部】

「雷別ドングリ倶楽部」は、高齢級のトドマツ人工林が立ったまま枯れてしまう気象害に遭い、笹地となった雷別国有林（標茶町雷別）をフィールドとして、平成19年7月から「広葉樹の森林づくり」（森林再生）等に取り組んでいるボランティアの方々の集まりです。今年度は26名で、森林づくり活動等を4回行いました。



### 川湯園地散策【第1回活動】 6月14日（火曜日）

川湯園地にある川湯ビジターセンター、つつじヶ原自然探勝路及び硫黄山（弟子屈町川湯）で、第1回「雷別ドングリ倶楽部」を会員20名の参加で初夏の快晴の下、開催しました。

この会は、高齢級のトドマツ人工林が気象害によって立ち枯れし、笹地となった箇所が広がっている雷別国有林をフィールドとして、平成19年7月から当センタ

ーと協働で森林再生（自然再生）に取り組んでいるボランティアの方々の集まりですが、植樹活動と共に地域の森林に関する名所を巡り、見識を深めることも活動計画に盛り込まれていることから今回の自然散策が実施されました。

参加者は、まず阿寒摩周国立公園のフィールドの成り立ちや自然環境などをわかりやすく解説している施設（環境省所管）「川湯ビジターセンター」を見学しました。

ビジターセンター長から、阿寒湖・摩周湖等は、噴火後のカルデラと呼ばれる噴石後の凹地に出来た湖であることや川湯園地の見所、観察できる動植物のお話しが 15 分ほどあり、その後展示物を見て、参加者は、「こんな素晴らしい施設があったんですね、見れてよかったです」「阿寒摩周国立公園のことがよくわかりました」などの声があり満足されていました。

次に、今回のメインである、つつじヶ原自然探勝路の散策です。今の時期、クリームがかかった白色のイソツツジ群落がほぼ満開となり、参加者を迎えてくれました。噴火による、強酸性の土壌がこの群落を維持し、他の樹木や草本を寄せつけないようです。一面に広がる光景を見て、参加者からは「とてもきれいでよかった」「あまり見たことがなく感動した」「白いけなげな花がかわいい」などのコメントがありました。

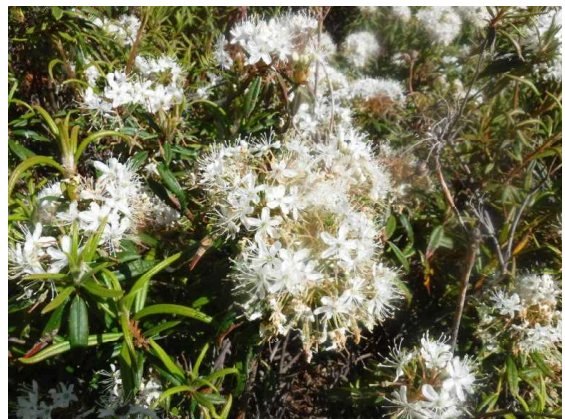
最後に、硫黄の匂いが一段と強くなり、白煙も昇る「硫黄山」を見学し、硫黄山名物の“温泉たまご”をおみやげとして購入したりしていました。皆さん満足された表情で硫黄山を後にし、帰路につきました。



▽ビジターセンター長の説明



▽当センター職員解説中



▽可憐なかわいいイソツツジ

## 広葉樹の森林づくり【第2回活動】 9月28日（水曜日）

雷別地区自然再生事業地（標茶町雷別国有林）で、第2回「雷別ドングリ倶楽部」を開催しました。

今回の「広葉樹の森林づくり」活動には、会員 16 名が参加し、ミズナラ・ヤチ

ダモ・ハルニレ・カツラ計 100 本の植樹と共に植栽木を野生生物の食害から守るため、保護管（ツリーシェルター）の被覆を行いました。

参加者は、当センターから作業内容等の説明を受け、曇り空でしたが作業は、し易い天気のもと、鍬を手に植樹に取り掛かりました。準備した苗木は 1 時間程で植え終わりましたが、笹の根が密集していて、植穴を掘るのに苦労された方が多かったようです。その後、昼食の時間まで保護管の組立てを行い、午後からは、完成した保護管を植えた苗木に被覆していきました。皆さん手慣れたで作業を進められ、予定より早く保護管の設置が完了しました。

森林づくり活動後には、当センター所長から、「植樹は、地球温暖化防止、SDGs の観点から大変意義のある活動であり、皆さんの貢献により植えられた樹木が順調に生長しております、誠にありがとうございます」との挨拶があり、皆さん充実した表情で会場を後にし、帰路につきました。



▽植樹の様子



▽保護管設置の様子

## オンネトー秋の自然観察【第 3 回活動】 10 月 12 日（水曜日）

阿寒摩周国立公園の最西端にある「オンネトー」（足寄町茂足寄）で第 3 回「雷別ドングリ倶楽部」の秋の自然観察を実施しました。

会で植樹と併せ根釧地域の森林の名所を巡る活動計画があり、コロナ禍もありましたが行動制限も発出されていないことから予定通り行うことが出来ました。

当日は、会員 20 名が参加し、秋晴れの空のもと、センター職員の若干の解説を交え散策しました。

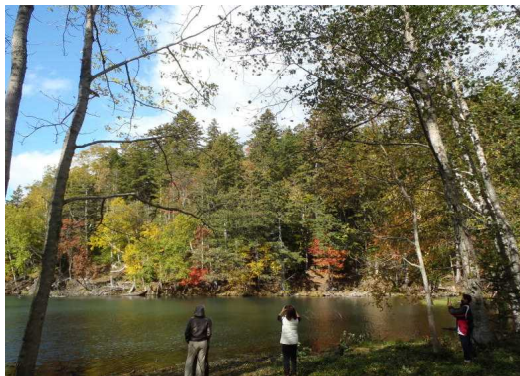
参加者からは、「今年の秋は比較的暖かい日が多かったので紅葉には早かったようだが、オンネトーの素晴らしい景観が見れてうれしい楽しかった」「遊歩道でのキノコやアカエゾマツの巨木、巨岩に張り付く樹木などめずらしいものが見れた」などの声があり満足されていました。



▽オンネトーの景観

その後、オンネトー野営場駐車場内の休憩舎の周りのベンチなどでくつろぎながら昼食を各自とりました。

次に、当センター所長から、「今年度の活動は、2月の来年度の計画を決める会を残すのみで、雷別地区自然再生事業地での植樹や自然観察など多くの会員の方にご参加いただきました、感謝申し上げます、来年度もより充実した内容で計画しますので是非ご参加のほどを」との挨拶があり、皆さん深まりつつある秋を満喫され、最後に、道の駅阿寒丹頂の里経由で帰路につきました。



▽オンネトーの紅葉

## 次年度の計画を検討【第4回活動】 2月8日（水曜日） ＜2年ぶり対面方式で実施＞

この活動は、次年度の計画を検討させていただく場であり、2年ぶりに対面方式となり、会員の方より貴重なご意見を頂くことが出来ました。（参加者12名）

会員の方々からは「植樹箇所には笹が密生して掘りづらいのでスコップではなくクワにして欲しい」や「事業地の近隣の酪農家に農協等を介し、保護管の再利用、将来的な撤去、今後、生分解性の保護管を使用していく旨伝えるのが良いのでは」等のご意見があり、これらの声を踏まえて次年度の計画を検討することとして、令和5年度「雷別ドングリ倶楽部」の活動内容を確定しました。



▽活動の様子

### 【野生生物調査】

この調査は、撮影頻度という量的なデータに基づいて、中大型ほ乳類の生息動向を探る試みで、赤外線感知装置付きのデジタル式自動撮影カメラを道路沿いに設置し、野生生物が装置の前を通ると24時間、自動的に撮影されます。

今年度は、当センターでは7月と10～11月の2回、雷別国有林の5箇所と7月に1回、標茶町立中茶安別小中学校の学校林の1箇所の計6箇所（各箇所約3週間）で撮影やデータ収集等を行いました。当該調査箇所では、アライグマ等の生態系に影響を及ぼす野生生物は撮影されていませんが、2年続けてヒグマが撮影されたところでした。

今後もこの調査を継続し、森林の変化や野生生物の生息動向を注視していきたいと考えています。





▽エゾシカ（令和4年7月・雷別 P3）



▽ヒグマ（令和4年7月・雷別 P3）



▽キタキツネ（令和4年7月・雷別 P5）



▽ネコ（令和4年11月・雷別 P4）

### 【釧路湿原自然再生協議会】

#### 森林再生小委員会「第22回」 10月18日（火曜日）

森林再生小委員会では、森林の再生（野生動物の生息環境修復を含む）に関する実施計画とその実施状況、モニタリング結果等を検討しています。

今年度は、午前中に5年ぶりに雷別の国有林で現地検討会を実施しました。

現地検討会では、委員長から「保護管を積極的に外してはどうか、何らかの形で保護管を外す基準を作り、それが適切かどうかモニタリングし、食害に遭ったかどうか等の情報を積み上げていけば、いつ保護管を外したら良いか決まるのでは」等の意見をいただいたところであり、当センターとして、早めに保護管を外すことを検討することとしました。



▽現地検討会の様子

午後は、当センターが取り組んでいる「雷別地区自然再生事業」と環境省釧路自然環境事務所の「達古武地域自然再生事業」について、本年度の取組状況や次年度の予定を説明し、意見交換を行いました。

今後、センターとして委員の方の貴重なご意見を反映させながら的確な施策を実施していきたいと考えております。



▽小委員会の様子

## 釧路湿原自然再生協議会「第29回」 3月10日（金曜日）

釧路市観光国際交流センターを運営会場として、釧路湿原自然再生協議会が開催されました。

今回は、新型コロナウイルス感染症の関係で、対面方式と Web 併用での実施となりました。

当日は、協議会構成員の公募結果について、新規で個人7名及び2団体の応募があり、第11期（前期）の構成員が総勢150名となったことが報告されるとともに、協議会の収支報告や各小委員会から開催報告がありました。

当センターは、森林再生小委員会の開催結果のうち、雷別地区自然再生事業における森林再生の取組状況や次年度の予定を報告し、意見交換を行いました。

次年度におきましても小委員会での意見を踏まえ事業を適切に実施することとしております。



▽協議会の様子

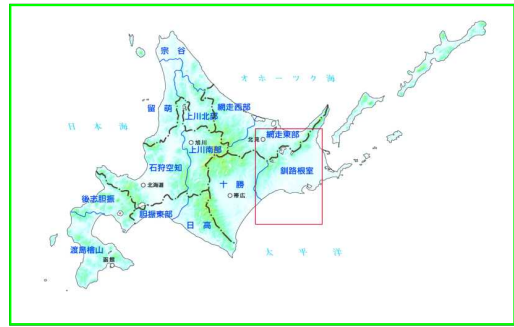


▽雷別地区自然再生事業取組状況説明の様子



## 活動区域及び所在地

当センターは、根釧西部森林管理署が管理経営する国有林（釧路市・釧路町・厚岸町・浜中町・標茶町・弟子屈町・鶴居村・白糠町の1市6町1村）が主な活動区域です。



林野庁 北海道森林管理局

くらしを育む・国有林

<https://www.rinya.maff.go.jp/hokkaido/index.html>

(URL 右側に表示の  
二次元コードからも  
アクセスできます。)



釧路湿原森林ふれあい推進センター

〒085-0825 北海道釧路市千歳町6番11号

【TEL】0154-44-0533 【FAX】0154-41-7305

[https://www.rinya.maff.go.jp/hokkaido/kusiro\\_fc/index.html](https://www.rinya.maff.go.jp/hokkaido/kusiro_fc/index.html)



表紙：令和4年度夏期のインターン生受け入れの様子。詳細は9-11頁をご覧ください。